夕刊
磐城新聞
二月十日發行
定價 [illegible]（郵稅[illegible]）
廣告料金（普通欄金六拾錢　特別欄金九拾錢）五號十二字詰一行一回（場所指定一行ニ付割增）
編輯印刷兼發行人　柏木[illegible]
福島縣石城郡平町[illegible]町十六番地
發行所　磐城新聞合名會社
登錄交付電略（タイライワキ）平局私書函第十二號　電話五六四番
（日曜祭日翌日休刊）

九々いらず珠算に就て

吉田松雄

十

位取りは法の首位と掛け合はした時は、實の數の桁を十位とする法の次位の桁と實を掛け合はした時は法首位と掛け合はした時の十位の下位を十位とする（三桁の掛算は順次下位に位取を定めること）

此の方法にて行ふと如何なる數に對つても掛け終らん桁に迄影響する事なく迅速正確に出來るのであります

實際に算盤を持つてやると驚く程簡便で成る程と感ずるを信じます、十分に習熟して下さい

$34\times36=1224$は法三と實四と見合せ三四―十二の九々に依り實の四を一に直し、次に二を置く、次に法六と實の拂つた四を掛け合せ六四―二十四の九々に依り三四―十二と掛け合した時に二と置いた桁に二を加へ次位に四を置く

此の時の盤面は三一四四次は法三と實三を掛け合せ三三が九の九々に依り三を拂ひ、次位に九を加へる（此の時の盤面一〇四四）最後は法六に實の拂つた三を掛け合せ六三―十八の九々に依り三三が九として置いた〇の所を十位として一を置き次位四の所に八を加へる

此れに依り掛け終つたのであるが、此の時の盤面一二二四、即ち答である

$640781\times33=21145773$

$238007\times45=10710315$

$954020\times61=58195220$

$890000\times17=15130000$

（二）

$235\times42\times41=9640822$

以上解説した方法は舊法と逆ふところは實の末位の桁から順次に計算を初めるので一段落毎に實の一桁を拂ふの必要なく、從つて時間と勞力を省き、又法九又は八等の場合未だ掛け終らない數に迄及ぼす事なく誤算の少い所に特長がある、筆記傳授にて六ッかしいように考へるだらうが決して六ッかしい事なく少しく練習すれば少しも困難なことなく正確迅速に覺へられる

簡便法（乘法）

△補數乘法

補數乘法は實（被乘法）の末位より首位迄順々に補數と掛け合せて相當する桁から引けばよいのである

例一　$45\times99=4455$

計算法

法の位數だけ實の末位より下げて單位とする

一、補數一と實五と見合せ$1\times5=5$を二より引く

此の時の盤面4495

二、次に補數一と實四と見合せ$1\times4=4$を八により引く

此の時の盤面4455

即ち商（答）四四五五となる

整數乘法位取の法則

總ての實（被乘數）の單位の次の桁から右へ數へて法（乘數）の桁數だけ下げて其の積數の單位とするのである

例へば$55\times55=3025$は法五五實五五とおき法の桁數だけ右へ下つた所が乘積の單位となる

磐泉吟社第二回作品

題湯本街衙新築落成式　高木磐海

甲戌迎春安四民　百年財政一番新
遊歡酌酒同心結　廳舍歐風莫等倫

祝古稀

松筠四季自依々　白首南山壽不違
擧觴老父相對酌　年華鶴壽古來稀

祝米壽

山嶂青松翠色新　節操堅固世所珍
龜齡不老騰雲勢　壽算高年是無倫

述懷

嘗盡艱難志益堅　窮通禍福豈非緣
居常學德祈該博　天性由來恥瓦全

寒梅　悼歌（一）

島田忠夫

北斗莊主赤羽松堂夫人エキ媼御長逝を悼みて

○風寒み梅ほころぶに至らざらむ北斗莊の庭霜堅くして

○寒梅のつぼみいくらかふくらみて人死に給ふとの悲しさ

○句を作り淸しむ君のかたはらに病み臥りつつ居り給ひけむ

○春去らば梅咲くべみと待ちまけてありけむものを人の悲しさ

○かなしみて俥いそがす痩形の晩霞國手も目に見ゆるかも

○北目なる君の莊には媼なくて寂しさ誰れかなぐさむらむぞ

○赤井おろし凪ぐころとなり君が莊にはつはつ白梅のはな

潮聲（十二　卷）

片寄文丹 選

○春近し

七客

春近き陽をはらみたる障子かな　芳月
麥の芽の一寸ばかり春隣　松堂
温室に伸びし日脚や春近し　秀勝
爐邊にて雪崩語るや春近し　枯萍
春近き四辻となりぬ植木賣　石城
ほり返す土の香りや春隣る　鶴歩
牧場のちらばる馬や春近し　武門

三光迭列

春近く乾しならべたる盥かな　芳月
[illegible]夜の團欒や父歸る　鶴歩
聞えとゞく瀨音かはりぬ春近し　武門

追加吟

旅好きの待つ春近し豫備調査　文狂

○雜詠　赤羽松堂選

戸明ければ初東風に注連みな動く　文狂
初曾我や團菊逝いて二十年
破魔弓や威を張る弟憎からず　武門
雪備ひして暮早き二日かな
松取りて袋小路のさびしけれ　晩霞

平町感冒流行

この町の感冒多し寢正月
事足りて靜心なる初湯かな　石城
雪すこしかきてありけり若菜畑　芳月
獅子舞の終へて人垣崩れけり　秀勝

社會の今日

○浮氷日のある方へ流れけり　梅里

女は一にも金二にも金だといふ、さう云ふ言葉は大低男の方から女を見たる場合が多いやうである　花袋

2月11日 △帝國憲法發布（明治二二）△金鵄勳章創設（同二三）△第一回建國祭擧行（大正一五）△宮崎縣延岡町、千葉縣銚子町―市政施行（昭和八）

2月12日 △リンコルン生る（一、八〇九）△諸道の關門を廢止す（明治二）△元吉林軍營長王德林吉林政府に叛き間島で旗揚げす（昭和七）

講談

浪人長屋

（10）

日岐武志作　月草道子畫

怪しい堂

搔き消す如く、小花の姿は見えぬ。地團駄踏んでも既に遲かつた、見れば今乘せて來た船頭は渡し錢も受取らずさッさと漕いで矢を射る如く船は既に向ふ岸に近づいた

『さては謀し合はせて我らを陷し入れたな』

源三郎はきッと唇を嚙んだ

右を見ても、左を見ても、そこら一面身丈けに餘る蘆がぼうぼうと生ひ茂つてゐた

もう夕暗がしのびやかに迫つてゐた、蘆の中には道らしい道もなかつた

源三郎は無中になつて蘆をかきわけて探しまはつた

ずぶずぶと不氣味に泥の中に踏込んだ、蘆の葉が手を切つて血がにじんだ

『小花どの――』

若しやと思つて源三郎は、思ひ切つて大聲で呼んでみた。そしてぢッと耳をすませてみた

が、あたりは、しーんとして物音もない、たゞ深い流れの音が、どーッとわびしくきこえるだけだつた

腹切りが不氣味に、どこかで鳴いた、もう夜だつた

蘆の穗先の上に星がキラキラとまたゝいて見えた

源三郎は、ほッと嘆息した

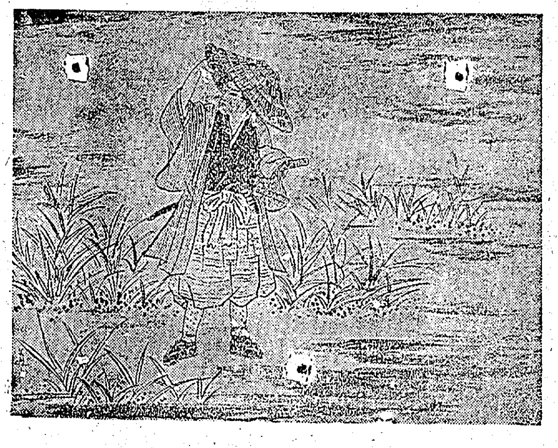
さつき切つた手の傷がひりひりと痛む

漸く蘆の中から抜け出た

そこに細い道が星明りに見出した。源三郎はその路を取つた――誰かが、誘はかしたのだ。そいつが船頭達を買いしめておいたのだと思つた

ふと一昨日の晩、板橋で懲らしめてやつた浪人、玄内の顏が浮んだ――あいつだ、と、思つた

――あいつが、手先の者にでも命じたのではないか



路は鬱さうと繁つた、杉の森の中に入つてゐる

森の中は眞ッ暗だつた。僅に白い路が續いてゐるのだが、それとても四五間先きはもう見えぬ、奥知れぬ森が覆ひかぶさるやうに深く、迫つてゐるのだ

急に、源三郎は胸が痛むやうな熱いものを感じた。小花の姿をはつきり思ひ出したからだつた

二晩、旅籠屋で部屋を同じくした、晝を二日旅を共にした、それだけで今は初めて源三郎は忘れ難い愛着を自分の心に強く感じた

――ならうことなら、後妻にと思つた

その小花を、今は見失つてしまつた

――どうでも、小花を探し出さねばならぬ

源三郎は強く心に思つた

森の中の路は、いつまでも續いた

ふと、源三郎の眼に灯りがうつつた。きはめてぼんやりした燈りを目當てに藪の中をかきわけて進んだ

古びた、小さな堂である

破れ戸障子がぼんやり明るい

『ごめん』

と、聲をかけてみたが返事がない

で、戸障子をあけて見ると、中央正面に古びた佛檀らうそくが一本、ともつてゐる灯りはそれだつた

源三郎は何氣なく一歩踏入つた途端

『あッ』

と叫んだ時は足元の床の一部分が抜けて眞ッ暗な井戸のやうな床下の穴へ轉落して行つた

舊十二月廿八日　土曜　癸丑　先負　閉　房宿　新二月十一日

諸判定應需
東京市本郷區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部　神誠館

▲一白の人　願望意の如くならず却て困難再發の恐あり▲二黑の人　一事に專念して多事を排すべし病怪我注意▲三碧の人　平生の努力に報はるゝも新規計畫は止めよ▲四綠の人　努する程に功現はれず定業に安んずべき日▲五黃の人　地位を固く守りて上下の親交を深ふすべし▲六白の人　氣運の佳なるに乘じ勇躍すべき日功績揚る▲七赤の人　氣力を更に奮ひ起てゝ努むれど大望も成る▲八白の人　一歩は一歩と力足をふみ締めて前進すべし▲九紫の人　萬事向上發展すべき日開店普請移轉旅行吉

舊十二月廿九日　月曜　甲寅　佛滅　建　心宿　新二月十二日

▲一白の人　忠言に反かず溫順なれば後援を得て功あり▲二黑の人　天與の幸慶は自ら家道の繁榮を齎らすべし▲三碧の人　本業に執着して他事を思はざれば安全なり▲四綠の人　義理に迫られ餘儀なき手出しも失敗に終る▲五黃の人　萬事に油斷なければ功果は期せず求め得ん▲六白の人　昇天の折を待つ龍の如く暫く淵に潜むべし▲七赤の人　長上の意見に從ひて事を謀れば大吉となる▲八白の人　諸事有望なる日後來の榮達を是す奮起せよ▲九紫の人　人の世話苦勞加はりて損害をも蒙るべき日

	十一日	十二日
日出	六、三二	六、三二
日沒	五、一八	五、一九
滿潮	前五、一〇　後二、二五	前五、三五　後三、四〇
月出	前四、一八	前五、一〇
月沒	後一、五〇	後三、〇六
干潮	前九、四〇　後一〇、〇五	前〇、三〇　後一〇、五〇

廣告

破魔弓と羽子板を
陳列致しました。
奉祝 皇太子殿下御誕生 用提灯 各種
スガノヤ提灯店
平町四丁目・電話九五番

刀劍研磨
白鞘調製
刀劍柄卷
刀劍買入
研師 翠光齋
主 船生四郎
平町十五丁目二六大町通り

舊正初賣ノ景品御準備
本年ハ漆器ノ他ニ小雜貨類モ取揃ヘ御便宜ヲ計リ極力勉強奉仕致シマス故是非本年モ御愛顧ノ程ヲ御願ヒ致シマス。
必ズ格好ナ品ガ有リマスカラ御照會下サイマセ。
各國產漆器
記念表彰品
恩賜賞與品
進物贈答品
景品賞品類
平町三丁目北裏通
共 共榮漆器店
（小店員、外交員、至急募集）

●舊二日市
―大特價・景品サービス！
中野洋品店の初賣

吸入用酸素 純度99%
度量衡
モノサシ
マス
ハカリ
體溫器
寒暖計
◎秤ノ取り・垂り・修繕・糸・緒・替ヘ致シマス
開內藥局
電話四〇番

本縣ノ郷土民謠生ル
コロムビアレコード
福島音頭……
（其ノ一節）
『ハアー磐城平のツツジケ岡に咲いたアノ花流す浮名は新川にソレサツテも平はヨイトコロ手拍子揃エテヨーイヤサ……』
コロムビア特約店
平町四丁目
會田時計店
電・三六三

貸切車御用の際は
是非電話六四〇番尼子タクシーへ御用命を御願申ます。
新車も購入致しました。
平町二丁目
尼子自動車部
電話六四〇番

磐城共濟病院
電話六四一番 一二四番
內科 院長 醫學博士 石山謙郎
小兒科 石山謙郎
產科 副院長 醫學士 五十嵐雄二
婦人科 五十嵐雄二
外科 部長 醫學士 有馬勇二郎
皮膚性病科 有馬勇二郎
耳鼻咽喉科 有馬勇二郎
X光線科 醫學博士 石山謙郎
物理療法科 技術員 石山彪
藥局 藥局長 藥劑師 吉本孝平
衛生試驗所 獸醫 高後利雄
事務長 鈴木寶雄
△診療時刻 午前八時より午後五時迄

東北々海道を一丸に
本縣の救農運動大成功
政友會院內幹事鈴木代議士から
縣下代表に詳細を說明

農村救濟策に關する縣下全農民上京の代表釘本縣會議長、靑沼町村長會長、大島農會副會長、入江耕地協會副會長、佐藤、小松の兩縣議以下約百二十名は既報の如く一昨八日早朝上京し丸之內東京府會事務局に勢ぞろひの後、此際東北々海道選出代議士を動かし且つ首相に陳情して飽迄初志の目的を貫徹すべく決議の上衆議院內燕樂軒に於て鈴木寅彥（民）鈴木辰三郞（政）兩代議士に會見した、席上釘本縣會議長の『政友會は從來如何なる方針を以て該問題の解決に努力せられたるか其間の經過を承り度し』なる質問に對し鈴木(辰)代議士は概要次の如く語つた（寫眞は鈴木(辰)代議士）

〇

福島に於ける大會の盛況は電報にて承知し代表諸君の熱心奔走に就ては全縣民と共に感謝措く能はざる處で、不尙は茲に東北の代議士として之に關する今日迄の經過を報告する

——今日(八日)より一週間程前各縣代表（一縣一二名宛の）と此所に於て會見の際政友會の方針及運動內容等に關しその要點を說明したが更に參考の爲茲に之を反覆する

焦眉の三問題を
政友幹部會で論議
熱烈な同志の關心振り

先般政友會幹部會の席上に於て、今や全國的に之を論議せられ而して議會の中心問題となつてゐる

一、農村救濟
二、蠶糸對策
三、匡救土木事業

の三問題に關し大政黨として此際之れが對策を確立するの要あり、それには問題の性質上幹部丈けでは越權に亘る場合無きを保し難いので更に政務、豫算兩委員に合議の上代議士會の承認を求め卽行するの必要ありとし、當日は恰も本會議日であつたが本會議の質問は單に民政黨の二名に止め、午後二時から聯合協議會を開く事に決定した處豫算委員と最高幹部に支障があつた爲己む無く翌日の正午本部に於て之を開く事に變更した

堂々の論據を固め
關係代議士結束
數へ上げた各種の不合理

玆に於て東北北海道の代議士は豫めその方針を決定し置く必要ありとし、關係者二十數名が虎の門のあけぼのに會合し、右協議會に對する要求として

一、農產物殊に米價統制法による價格の不合理を是正する事

（政府は統制法の最低價格二十三圓二十錢に對し生產者たる農民からは遙かに安く買ひ上げるので農民の利潤が極めて少いに拘らず消費者は仲買人の占むる利益を轉嫁されて高い米を買はねばならない、而も九年度の米穀需給推算は供給は六年度持越高九百萬石、產額七千八十萬石、移入見込高が朝鮮より八百五十萬石臺灣より四百萬石、その合計が九千二百三十萬石である。これに對する需要は消費見込高が七千三百十萬石、輸移出見込高が四十二萬石の、合計七千三百六十萬石である。その結果、需給の差引は端境期持越高として一千八百七十萬石に上る。理想持越高五百萬石を控除するも、なほ千三百七十萬石といふ莫大な過剩米となるが臺灣移入米がその數量においては、過剩米の大部分を占めてゐるので敢て移入の必要が無い處へ、內地には相當籾の貯藏があると云ふような狀態なるに拘らず、內地米を倉締めした後に移入米が入るので依然價格は緩和されない。即ち朝鮮、臺灣に統制法を布くか、事實を行はずして米價の調節を望むは所謂百年河淸を待つに均しい）

二、蠶糸も生糸の滯貨十五萬梱と註せらるる處へ昨年の乾繭と來らんとする春繭あり加ふるに人絹の擡頭に因る對米價格の逆調で直に農村に及ぼす影響が蓋し重大なるものあるから、右に對して應急策を講ずるは勿論恒久策を確立せねばならぬ

三、土木匡救工事に就ては特に政府に對して平等的施設を要求する事

（東北々海道は氣候風土に於て年一回の收穫すら時に凶作あり、その天惠と地福とに於て二毛三毛作の可能なる關東西と甚だしく其の事情を異にせるに拘らず、同じ地租條例の支配を受け六十年間の苦楚を嘗め不平等に呻吟し來つた地方民の爲不合理なる劃一打破により其間の革新を叫ばねばならぬ、而も匡救事業の九年度豫算は八年度の一億數千萬圓に比し、僅に千數百萬圓に過ぎぬので其の均霑する處想ひ半ばに過ぐるものあるが、之は前記の事情から關東西の分を割いて之を天惠地福の極めて稀薄なる東北々海道に廻し、須く從來同樣繼續方を要求する事

政府側直に共鳴
折衝圓滑に進捗して
近く處理法提案に內定

以上の要綱を定めて翌日の幹部會に臨む事と、若し不幸にして容れられずんば一同席を蹴つて退き東北の議員大會を開き決死の努力をなす事を申し合せて本會に臨み松岡俊三代議士（山形）より之を提案して滿場一致の同意を求め、右各項を政友會の方針とする事に決し之れが實行方法として黨から云へば此種の問題に關しては黨の決議、若は法律案として提出するが相當なるも、時恰も非常時に際し、道理に勝つて實行に敗るるが如きを避くる爲

（第一案）政府自ら提案する意思無[illegible]かを折衝する事

（第二案）玉碎主義

を立て第一案に當面する人選方を望月、島田兩總務、山口幹事長に一任した結果農村問題に最も理解深き東武氏を筆頭に政務調查會長若宮貞夫、財政通の第一人者大口喜六及島田俊雄總務諸氏に決し、齋藤首相に面會を求めた處首相に於ては事は刻下の重大問題なりとし、更に山本內務、高橋大藏、後藤農林三土鐵道各大臣の關與を必要なりとし衆議院首相室に於て前記代表と會見（內相事故欠席）した處、三問題とも公明なる政治の執行なりとして之を快諾し、藏相の如きは米穀統制法の不備を指摘したるに共鳴し

一、蠶糸問題は相當硏究中なるも良案なきに困む、政友會側の成案を示され度い

一、匡救工事に就ての東北北海道重視は之を認むる

而して議會中一日も早く之れが處理方案を提出する旨を承諾した、而も政府對政黨の折衝にして斯の如く相互誠意を持ち寄り、圓滿裡に事の進捗を見たのは殆ど類例の無い事でこの好結果は直に幹部會に報告された

問題の促進上
縣代表選出
今後の運動陣容

その翌日築地の旗亭治作に催された堀切大藏政務次官、板谷鐵道參與官（北海道）の東北々海道選出代議士招宴席上前記政府交涉の顚末に就て報告方の希望あつたので助川代議士より一場の報告後鈴木代議士より此際一縣一二名の代表者を擧げ該問題に對する政黨幹部及現內閣の動きに注意し其の善處を怠らぬよう心懸け度い旨を提案して本縣では佐藤庄太郞、鈴木辰三郞兩代議士が當選した

〇

以上の方針と方法とは單に東北々海道代議士の申し合せで無く實に大政黨たる政友會として今後執るべき政策である。縣下代表諸君の奔走努力は誠に感謝に禁へざる處で斯くお互の方針が合致した上は目的の達成上心つきの點は遠慮なく申し出でられ度い。云々

匡救事業費持續陳情
平町から關係各大臣へ

平町では過般の町會で議決して九年度匡救事業費減額反對につき左記陳情書を總理、大藏、內務、農林の各大臣に送付した

陳情書

時局匡救事業は昭和七年度より三ケ年繼續事業として計劃せられ一部竣工又は實施中にして土木事業の如き大半竣工せられ多數失業者救濟、地方民の窮迫を匡救したるは誠に悅とする所に有之候、然るに政府に於ては昭和九年度豫算に匡救事業質の減額農村救濟に關する各種計劃の削除を見んとするが如きは地方の爲め遺憾に堪えざる次第に有之、斯くては幾多計劃の變更、又は事業中止の己むなきに至り所期の目的を達成すること能はず、町村治の運營に支障少なからざるべきを信ず、而して地方に於ける窮狀は尙未だ更生の實を擧ぐるに至らず、殊に本町は小都市にして附近農村に於ける各種施設事業と密接なる關係を有し之等事業の中止を見んか、物費上將精神上に及ぼす惡影響寒心に堪ねざるものあり更に當町に最も關係を有する夏井川及支線改修の如き之れが爲め中止の狀態に陷らんか、地方に於ける重大問題たるを以て昭和九年度の時局匡救事業費豫算を特別に增配せられんことを切望する次第に有之候、玆に本町會議決に依り此段及陳情候也

此機を逸す勿れ
鋪裝の實現に就て
平町愼重を期す

愈々鋪裝計劃の献立が整つた平町では既報の如く昨九日午後一時半から

長橋、古硏、紺屋町、材木町、一、二、三、四、五丁目

の九區長其他土木委員を招集受益者負擔額に就いて種々協議する處あつたが一丁目から五丁目迄が六分、他は四分の說もあり結局區長間に於て一間當り十圓內外で纏るものと觀られるが該工事は九年度時局匡救工事として縣下主要都市に割當てられたものであり此の機會を逸しては近い將來には到底實現されぬので當局に於ても愼重各區長と連絡を取り事の促進を圖る事になつたと

傷まし、白井氏の
物云はぬ桑梓入り
上野以來多數名士の送迎

養痾の旅先から再び桑梓の地を踏まず傷ましくも幽界に去つた白井博之氏の遺骨は昨報の如く昨九日午後四時三十八分の下り列車にて平驛に著した、之の日上野驛には

安藤信昭子爵、靑森縣多額議員宇野勇作氏、比佐助川、佐藤各代議士、淺野磐炭社長、菅原同上鑛業所長

其他知名の士數十名が見送り嗣子一郞氏以下多數近親及び金成、鈴木貴衆兩院議員其他に護られ水戸驛に至るや同驛頭でも多數知名の士が迎送して元多額議員竹內權兵衞氏及元代議士安島重三郞氏が乘り込み、植田驛にても同樣多數驛頭の送迎あり途中迄出迎へた木村前代議士、山崎與三郞氏、古川植田、小野小名濱兩町長其他多數同乘、平驛頭に雲集せる靑沼町長外各方面の官民有志知己に迎へられ直に磐越線に聯絡、行列は夕闇を縫ふて氏が曩に回春の身を以て歸らんと念願した上小川の邸に入つたが沿道の出迎人多く漫ろに遠平翁以來の門地なるを思はしむるものがあつた

電報は如何に動く？
興味深い平局の調べ

平局最近五日間の職業別電報發著數次の如く、着は銀行會社、發は靑果商が首位を占め、周旋業の着發何れも相當の數に上つてゐるのは世相の何物かを物語るものとして興味深いことである

區分	着	發
銀行會社	三三	一二
靑果商	二八	二三
雜貨商	二三	二一
石炭商	二八	三
周旋業	二四	一五
農業	一七	一四
麻袋業	一一	一二
米穀商	一七	一二
株仲買商	七	一一
乾物商	一〇	一〇
吳服商	九	八
劇場	一〇	九
醫者	七	九
新聞業	七	八
料理屋	一三	八
旅館	一四	五

松方ソ油購入協議
絕對支持を標榜して
十二日關係者會同

六社合併反對を標榜して飽迄松方ソ油を支持する自動車協會平支部ではさきに臨時總會で

（平）野崎滿藏、山崎佐市郞、吉田彌之助、松崎安芹澤正忠、三井富吉（湯本）鈴木稻美、木村德三郞、矢內藏太郞（小名）小濱長太郞、馬目森太郞平野直彌（江名）吉田重司、瀧口平治（豊間）鈴木房次郞、鈴木文十郞

の各委員を擧げて運動を續けて來たが更に明十一日は委員會翌十二日は平署會議室に於て今後に關し具体的協議をなすと

國防義會野外演習
明十一日好間村で

好間村が國防義會を創設し明十一日の建國祭を卜して發會式を擧行する事は既報の如くで昨九日は審判官及び演習部隊幹部打合協議會を開いたが當日は午前十時から村役場、町田橋間に於て靑訓、在軍合同の野外演習を行ひ正午小學校裏田圃に休戰、午後零時半から小學校庭に發會式を擧行、福島聯隊區司令部付藤井中佐の講演ある豫定で會長に金成村長、副會長に吉田第一高橋第二各靑訓主事、香月古河炭鑛、吉田好間兩在軍會長の四氏を推し向ふ三ケ年間を第一期として村民の國防意識を涵養するものである、尙當日同村女靑團員一同は出動して焚出しその他に從事すると

勞銀を淸算され
大敷の漁夫喜ぶ
豊間引上げの百餘名

豊間村大敷網事務所では漁獲高二十萬圓の豊漁で去月末仕事を打切り此程百餘名が歸鄕に際し不漁の年は往々翌年延ばしとなつた賃銀の總額一萬圓を全部支拂つたので從業者は何れも大喜びである

凌辱致傷
陪審を辭退
平支部で開廷

双葉郡熊町村大字夫澤字園子橋九〇農元次郞長男山口寅松(二七)に係る强姦致傷事件は過般豫審終結、陪審裁判準備中であつたが同人が辭退したので愈々來る二十二日平支部の公判に附され中島裁判長係り、關口、香西兩判事陪席、濱田檢事關與千葉、門傳兩辯護士立會開延する事になつた

濱三郡木炭檢查高激增

濱三郡木炭組合に於ける去月分檢查俵數は

石城　一三七、九五〇俵
双葉　一二九、三三一
相馬　四五、〇七五

計三二一、三五六俵で昨年同期に比し双相三〇、三四五俵本郡三五、〇七九俵の增加であつた

認知訴訟續行　双葉郡上岡村生れ同郡大野村大字大川原字森頭菅野傳(二二)及び母クラヨ(三三)が安齊辯護士を代理人として平支部に提起した同字番地不詳石井傳二(二八)に對する私生子認知訴訟は昨九日午後三時から中島裁判長係り、原告側安齊被告側千葉兩辯護士立會開廷、口頭辯論を行つたが來月二日續行する事となつた

第三卒業見學　第三卒業生百三十餘名は今十日吉田石田兩訓導引率の下に諸橋醫院を見學した

卒業記念撮影　平町各小學校では明十一日紀元節擧式後卒業記念の撮影をなす

ラヂオ座談會　明後十三日會に於て仙臺放送局園田氏のラヂオの講演あるを機とし開會に先だち會場マルトモで靑沼町長、戶石郵便局長、橫山警察署長、ラヂオ商、電燈會社、外町有志の座談會を開くと

莚織講習會　內郷村大字內町字水の玉村議草野三千雄氏發起の莚織講習會は七日より一週間同村武德殿で開いて居るが一日の製造枚數三十三枚で一枚代八錢で一日の製造高は藁代を差引七十八錢位であると、

縣社新年祭　縣社子鍬倉神社は來十八日、八幡神社は十九日何れも祈年祭を執行する

馬匹去勢調查　本郡の馬匹去勢調查は來る十四、五の兩日獵蹄馬の檢查は十七日何れも平國体事務所脇で執行

良馬種付協議　石城產馬組合では左記日割により縣より技術員を招聘、種付業務の協議會を開く

十九日上小川村內倉、廿日川前村小學校、廿一日三坂村小學校、廿二日澤渡村驛場、廿四日入遠野小學校、廿五日田人小學校

平商寒稽古納會　既報平商校の寒稽古納會は昨九日午前十時半から同校道場に於て皆勤者に賞狀を授與對組對學年の紅白試合後對磐中との紅白試合を行ひ、劍道十一對七で平商捷ち、柔道は四對四の大接戰で引分となつた

豊間新造船竣功　豊間村では從來底曳漁船六艘（一日一艘漁獲約四百圓位）の處へ遠藤漁業組合長が經費一萬圓を投じ（一艘三十噸）建造中であつたが九日落成大いに遠洋漁業に乘り出す事になつた

消防手公傷　磐崎村消防組第五部伍長藁谷五郞氏は舊臘十五日夜の防犯デーに誤つて轉倒左膝關節を挫折したので同消防組では公傷として救濟方を今十日平署に報告あつた

平窪靑年映畫會　團基金募集のため來月七日夜同村小學校に於て映畫會を催す

築港の豊間賑ふ　豊間村築港工事人夫着工以來の稼高は總額二萬六千圓の多きに達して居るので懷ろ具のよいこれら勞働者達中には舊正月を前にして救濟を要する者が一名もないと

建國祭被表彰者　明十一日の建國祭當日縣より表彰される各種功勞者中本郡關係左の如し

豊間村長鈴木藤治郞（自治功勞）勿來町赤津一（靑訓多年指導）內郷村草野三千雄（强健法考案）

磐城名物
靈峰羊羹
小川郷驛前
平屋賣店

歲末救貧

江名　此程二十四名に對し最高五圓、最低一圓を贈り、尙學用品購入の困難小學兒童に對しては五圓宛を配給した

磐炭　では村內四百三十名に對し一人當り二十錢宛施與した

癲癇　內郷村大字白水字入山無職目黑昌發(三五)は十七才頃より月二、三回宛癲癇を發作して居たが九日午後六時頃入浴中發病溺死した